

地域包括ケアシステムの中で OTは何ができるのか

特集にあたって

今後、高齢化がさらに進展し、単身や夫婦のみの高齢者世帯の増加や認知症高齢者の増加が予想されている。このような中、国においては、介護・医療・住まい・生活支援・介護予防が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を目指すこととしているが、その根幹は新しい地域づくりである。

特に生活支援や介護予防の役割は大きく、地域の中で住民が主体となってさまざまな活動が展開される仕組みづくりが、今年度の介護保険制度改定で強化されている。ここに今回、リハ専門職が積極的に活動できる枠組みが新たに設けられた。その意義は、これまでの医療機関や在宅訪問等による個主体のアプローチから、「地域」を切り口とした作業療法の展開が可能になったということだ。そして将来、すべての国民にとって身近な存在に OT がなれるか、今まさにその入り口に来ているということでもある。

一方で、OT の活躍の場が認められた分、その責任も重大である。これから OT 一人ひとりの取り組みが周りから評価されることとなり、自分自身の業務の中に地域までを見据えた視点がさらに求められてくる。

今回の特集では、地域包括ケアシステムの実現に向けて、具体的に OT の果たすべき役割や実践論について、国の考え方や先駆的な取り組み等を交えて紹介している。ぜひとも、熟読してほしい。

(宮永敬市)

企画担当

宮永敬市 (北九州市保健福祉局地域支援部健康推進課、作業療法士)

長野敏宏 (御荘病院、医師)

竹内さをり (甲南女子大学、作業療法士)